

【8月の気象】

8月の季語では「残暑」、「立秋」など、秋を思わせるものもありますが、例年太平洋高気圧に広く覆われて晴天の暑い日が続き、1年のうちで一番気温が上がる月となります。暑いだけでなく強い日射によって地面付近の空気が暖められて上昇気流が強まると、積乱雲（入道雲、雷雲）が発生・発達し、局地的に急な強い雨や落雷、竜巻などの激しい突風をもたらすことがあります。落雷や竜巻などの激しい突風が予想される場合に、気象台では雷注意報や竜巻注意情報を発表して注意を呼びかけます。気象情報で「雷を伴う」「大気の状態が不安定」「竜巻などの激しい突風」といった言葉が使われていたら、天気の変化に注意してください。雷の音が聞こえたり、黒い雲が近づいたり、急に冷たい風が吹いてきたときは、発達した積乱雲が迫っているサインです。屋外にいる場合は、頑丈な建物など安全な場所へ速やかに避難してください。河川や水路等、急な強い雨による増水にも注意が必要です。

引き続き、熱中症や農作物の管理には十分注意してください。熱中症の予防には気象庁と環境省が共同で発表している「熱中症警戒アラート」をぜひご利用ください。

熱中症警戒アラートのHPはこちら↓

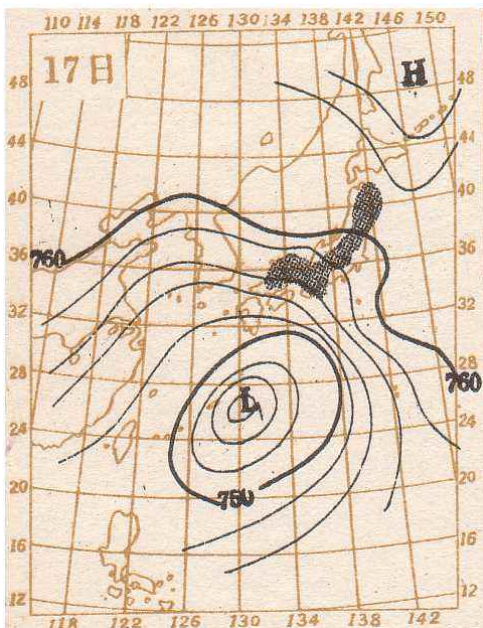
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#element=heat&contents=information>

【気象用語】「枕崎台風」とは

松山地方気象台は1890年から観測を始め、100年を超える観測の記録があります。その中で、日最大風速、日最大瞬間風速の観測史上1位の記録は戦後間もない1945年に発生した台風第16号（枕崎台風）により記録しました。

台風第16号は鹿児島県の枕崎市に上陸後、北北東に進み、枕崎で観測された最低海面気圧916.1hPaは室戸台風により室戸岬で観測された911.6hPaに次ぐ記録となっています。戦後間もないことで気象情報も少なかったことや防災体制も十分でなかったため、全国各地で大きな被害が発生し、死者・行方不明者を合わせると3500名を超えました。愛媛県でも死者が100名を超える大きな被害に見舞われました。このとき松山で観測した日最大風速25.4メートル、日最大瞬間風速42.1メートルが観測開始から133年の歴史の中で1位の記録となっています。

なお、宇和島では1922年からの観測の中で1964年台風第20号により観測された日最大風速32.7メートル、日最大瞬間風速72.3メートルが観測史上1位の記録となっています。



地球温暖化が進むと強い台風が多くなるという研究もあります。枕崎台風により記録した風速の記録を塗り替えるような台風に見舞われる可能性もあります。気象台が発表する台風情報に留意いただき、早めの対策、早めの避難を心がけてください。

松山地方気象台 日最大風速の観測史上1位～3位 風速の単位はm/s

	1位	2位	3位
風速（風向）	25.4（南南東）	24.7（南）	23.6（北北西）
観測日	1945/9/17	1954/9/26	1934/9/21
要因	枕崎台風	洞爺丸台風	室戸台風

松山地方気象台 日最大瞬間風速の観測史上1位～3位

	1位	2位	3位
風速（風向）	42.1（南南東）	37.1（南南東）	36.4（北北東）
観測日	1945/9/17	2004/9/7	1970/8/21
要因	枕崎台風	台風第18号	台風第10号

当時の天気図（1945年9月17日6時）

*気圧の単位はmmHg

（気象庁HPより）